



バリアフリー委員会は学生・教職員が一体となり、本学に在学している難聴学生の講義保障や車椅子学生のサポート、大学への施設改善要求など様々なボランティア活動を行っている団体です。

## ノートテイク

ノートテイクとは、講義を聴くことが困難な難聴学生1人に対し、ノートテイカー2人が難聴学生の両脇に座り、先生の講義や生徒の発言をノートに書いて難聴学生に講義の内容を実況するというものです。

難聴学生に対して、私たちバリアフリー委員会がノートテイクというサポートを行っている理由は、私たち健聴者と同じように大学へ授業料を払い講義を受けるのですが、難聴学生は耳が聞こえないというハンデを持っているので、健聴者と同じように講義を聴くことが出来ません。ここで本来は講義を担当する先生が何らかの形で難聴学生に対して、健聴者と同じ講義をして理解させる必要があるのですが、それを行うのは非常に困難です。そこで私たちバリアフリー委員会のノートテイカーが難聴学生の耳となり、ノートに書いて講義を実況することで、できるだけ内容を難聴学生に伝えようとするのがノートテイクです。

## パソコン通訳

パソコン通訳というのは、ノートテイクと同じく難聴学生1人に対して、パソコン通訳者2人が両脇に座り、講義の内容をパソコンのIPtalkというソフトを使って実況するものです。

パソコン通訳はノートテイクと違いノートではなくパソコンを使うわけですが、この利点というのは、ノートテイクより講義の内容をより多く伝えることができます。講義中先生が話す言葉の速度は毎分約400字と言われ、ノートテイクがそれをテイクできる文字数は70字とされています。それに対しパソコン通訳は150～200文字の入力が可能となります。ノートよりもテイク速度があるということで需要が高いのですが、パソコン通訳をするにはある程度の技量が必要となるのでテイカー（テイクを行う人）が不足しています。現在、当委員会では対策としてノートテイカーからパソコン通訳者を育てる養成活動に力をいれています。

## 各部紹介

---

### 学習部

被テイカーである、難聴学生とよりスムーズに手話を使ったコミュニケーションを図る事を目的として毎週火曜、金曜日に講師をお呼びして手話の勉強会をひらいています。その企画・運営や手話合宿、クリスマス会、他大学との交流会など、手話を使った各種イベントを行っています。



### 交流部

各種イベントなど、バリアフリー委員会内での交流の企画、運営はもとより他大学やさらに多くのろう者との情報交換を目的としたスポーツ交流会なども開催しています。



### 編成部

ノートテイク、パソコン通訳、筆記代行などの講義保障の計画を立てます。おおくのテイカー・被テイカーの管理を行い、双方の連絡役としてテイクの募集などを行っています。

### 養成部

ノートテイク、パソコン通訳などの人数を増やすために、初心者には親切丁寧にテイクの基礎を教えます。先輩のテイク経験者から未経験者へテイクの方法を伝え、実際に練習してノートテイク、パソコン通訳者を養成します。講習会などをひらき定期的に練習に参加できる態勢を整えています。

### CAR部

CARのCは缶、Aは集める、Rはリングプルということで、アルミ缶、リングプルを集めて車椅子と交換することを目的とした活動をしています。学内でも生協前やA館1階、1号館などアルミ缶専用のゴミ箱を学内に



バリアフリー通信

多数配置しています。車椅子1台との交換目安は800Kgで現在104Kgまで集まっています。

## 広報部

広報部ではこのバリアフリー委員会を皆さんに理解してもらい、協力してもらえるように広報活動をしています。4ヶ月に一回のバリアフリー通信の発行を目指していて、Web上のホームページの運営なども行っています。このホームページは札幌学院大のページからリンクすることが出来ますので、ぜひご覧下さい。バリアフリー委員会の活動内容をより詳しく知ることが出来ます。

(HPアドレス：<http://www.sgu.ac.jp/bfc/>)

## 今年行った活動

### スポーツ交流会

7月17日、札幌学院大学第一体育館でスポーツ交流会を行いました。浅井学園大、酪農学園大、北星学園大、北大の手話サークル、バリアフリー委員会に関係したろう者などが集まりサッカー、バレー、ミニバレーなどのスポーツを通して他大学との交流を深めました。



### 北海道重複障害教育研究大会

旭川で重複障害教育研究大会が行われました。バリアフリー委員会からも数名が参加し、委員会発足当初から関わって下さった故高橋渉先生のビデオ講演など、現場の教育に関わる先生方から障害者教育への取り組み方などを学ぶことができました。

## 全国ろう学生の集い

他大学の障がい学生に対するサポート体制の情報交換などを目的とした、第 25 回全国ろう学生の集いが愛知で開催され、バリアフリー委員会からも 5 人の学生が参加しました。色々なテーマについて語る場や、情報保障（テイク）、アメリカの手話、ろう者が楽しむ音楽、などの体験学習などがありました。

この大会を通して、他大学のサポート体制の現状を見ることができ、初めてろう学生を受け入れるにあたり、ろう学生へのサポート体制を確立することに戸惑っている大学が全国に多いことを知りました。

全国の障がい学生が求めているサポート体制を知ることができ、改めてバリアフリー委員会の活動を見直す良い機会になりました。

## 北海道障害者フライングディスク

今年の 9 月 3 日、4 日、第 11 回北海道障害者フライングディスク大会が札幌つ・ど一むであり、当委員会からも数名、競技のサポーターとして参加してきました。

フライングディスクとはフリスビーを投げて輪の中に入れたり、遠くに飛ばして距離を競う競技です。障がいの有無を問わず、子どもからお年寄りまで男女一緒に楽しめる数少ないスポーツです。

## 手話合宿

9 月 20, 21 日に一泊二日の手話合宿がありました。手話を用いたレクリエーション、障がいについてのディスカッション、全国ろう学生の集いの参加報告会などを行い、普段とは違った場所で様々な人と手話でコミュニケーションする事によって、手話に対する意欲の向上に繋げることができました。

### 編集後記

バリアフリー委員会では、現在、100 名以上の学生と教職員で 6 名の障がい学生をノートテイク、パソコン要約筆記などの講義保障を中心にサポートしています。その他、各部の積極的な活動を通して当委員会を高めていきたいと思えます。この冊子が皆様の当委員会へのご理解に役立つことができれば幸いです。